



**理化学研究所 環境資源科学研究センターと
名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所の
協定締結のお知らせ**
- 化学と植物科学の異分野融合研究を促進 -

理化学研究所 環境資源科学研究センター（CSRS）と名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所（WPI-ITbM）は、化学と植物科学を中心とした異分野融合研究分野で、共同研究をはじめとした連携・協力に関する協定を締結したことをお知らせいたします。

環境資源科学研究センターは、環境に負荷をかけない生物資源、化学資源の循環的創出・活用を目指し理化学研究所の戦略的研究センターの一つとして 2013 年 4 月に発足しました。「植物科学」「触媒化学」「ケミカルバイオロジー」の融合によって、大気中の炭素や窒素から有用な物質を作り出すこと、金属元素を効率的に回収・活用すること、さらにこれらの研究に必要な研究基盤を構築することで、資源・エネルギー循環型の持続的社会的実現に挑んでいます。

一方、トランスフォーマティブ生命分子研究所は、2012 年 10 月世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に採択され、名古屋大学に設立された国際研究所です。「合成化学」、「触媒化学」、「動植物生物学」といった名古屋大学の強みである研究分野の若手研究者が結集し、既成概念にとらわれない発想や異分野融合研究の仕組みによって、世界が直面する食糧・エネルギー問題を解決可能な「分子」を創出することを目指しています。

協定の締結を記念し、第 1 回 CSRS-ITbM ジョイントワークショップが 2015 年 1 月 7 日に名古屋大学で開催されました。冒頭の篠崎一雄センター長（理研 CSRS）と伊丹健一郎拠点長（ITbM、名古屋大学）による両研究所のミッションとゴールについての講演に続き、長田裕之 CSRS 副センター長が「Reveromycin A, an amazing gift from microorganisms」、山口茂弘 ITbM 副拠点長が「Excited state design of fluorescent molecules for bioimaging」と題し両拠点の代表的な研究分野である「ケミカルバイオロジー」と「蛍光イメージング分子」について講演を行いました。また、両拠点で活躍する若手研究者 8 名の招待講演、60 件をこえるポスター発表では、会場に詰めかけた 250 名を超える研究者と学生が、機関・分野・言語の壁を超え白熱した議論を交わしました。

本協定によって、両研究機関の連携関係の強化はもとより、化学-生物学の新たな融合領域研究の創出と国際的な研究ハブの構築、さらには食糧・エネルギーといった社会が抱える問題の解決を目指して参ります。





“The 1st CSRS-ITbM Joint Workshop” (January 2015, Nagoya University)